

鳥取県米子市



国史跡米子城跡から望む米子市街・大山

米子市は、鳥取県の西部、山陰のほぼ中央に位置し、東には伯耆富士とも呼ばれ国立公園となっている中国地方最高峰の大山、北に日本海、そして西には日本で2番目に大きい汽水湖で、国際的に重要な湿地としてラムサール条約にも登録されている中海（なかうみ）という、豊かな自然に囲まれています。

さらに、海に湯が湧く皆生温泉、白砂青松の弓ヶ浜海岸、日本最古級彩色仏教壁画の出土で全国的な注目を浴びた上淀廃寺跡、大山山麓から湧き出る名水など、優れた自然環境、歴史的遺跡や観光資源を有しています。

皆生温泉



また、紀元前からの歴史を持ち、弥生時代の大規模集落跡や古墳時代の遺跡も数多く発見されています。遠く弥生時代から大陸との交流があったとされ、江戸時代には城下町として繁栄し、その城下町に住む商人によって「商都米子」の礎が築かれました。

その文化や気質を受け継ぎながら、現在では、高速道路や鉄道、さらには空路・海路が整備され交通の要衝として「山陰の玄関口」の顔も持っています。そんな「交流のまち」、それが米子市です。

美保湾に面した弓ヶ浜半島の東端に、米子の奥座敷と呼ばれる山陰有数の皆生温泉があります。1900年、皆生海岸の浅瀬に湧き出す熱湯を、偶然にも漁師が発見。それが皆生温泉の始まりです。

ここは、東南に秀峰大山、北に美保関、そして遥か水平線に隠岐島を望む景勝地。皆生、そして皆生から弓ヶ浜にかけての一带は、【日本の朝日100選】・【日本の渚100選】・【日本の白砂青松100選】・【都市景観100選】にも選ばれています。

白砂青松という日本独特の美しい海岸風景を残す海辺には、のどかな温泉情緒の落ち着きとあいまって、開放的で明るいマリニリゾートの空気があふれています。

加茂川・寺町周辺



白壁造りの土蔵



寺町通り

加茂川・寺町周辺は、古い街並みや土蔵、町屋景観など、往時を偲ぶ歴史資源や文化が息づく地区で、川沿いに建ち並ぶ白壁土蔵が、江戸時代に商港として栄えた往時の面影を偲ばせています。本市の中心を流れる加茂川は、鉄道が開通するまで米子の玄関口であった米子港から物資を運ぶ重要な水路で、商都米子の繁栄を支えてきました。

また、寺町通りは、様々な宗派の寺院が9つ建ち並び、おごそかな雰囲気とどこかぬくもりを感じさせます。



国重要文化財後藤家住宅

江戸時代に海運業を営み、藩の米や鉄を船で運ぶ特権を与えられていた廻船問屋の屋敷です。母屋を始め一番蔵や二番蔵も寛政期以前のもので、格子戸や本瓦葺の屋根等が古い町屋の貫禄を見せる国の重要文化財です。

（内部の一般公開はされていません。）



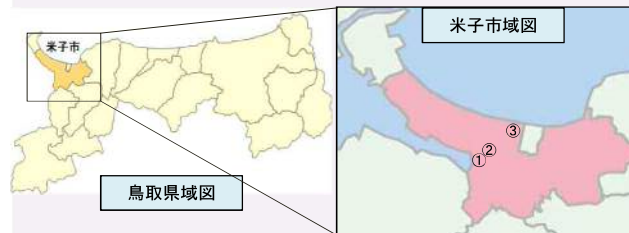
中海（米子水鳥公園）



伯耆古代の丘公園



天の真名井
（環境省名水百選）



- ①米子城跡
JR米子駅から徒歩約15分
- ②加茂川・寺町周辺地区
JR米子駅から路線バスで約5分
→徒歩約3分
米子自動車道米子ICから車で約15分
- ③皆生温泉
JR米子駅から路線バスで約20分
米子自動車道米子ICから車で約10分